

放送教育（全国放送教育研究会連盟） 課題別・番組別研究交流会 6

テーマ ■ 特別支援教育の充実と拡がりに向けて

●活用番組「みてハッスル きいてハッスル」

講師 坂田 紀行（前全放連副理事長）

発表者 安井 政樹（北海道室蘭市立絵鞆小学校） 制作者 大澤 隆弘（NHK大阪放送局ディレクター）

司会者 齋藤 康男（東京都立府中養護学校） 記録者 川口 尚人（東京都立あきる野学園養護学校）

1 発表概要

◇「みてハッスルきいてハッスル」活用実践

- ・普通学級で特別支援教育を進めるためにはどのように番組を活用したらよいか。
 - ・コミュニケーションスキル…スキルを身につけることで友だちとうまく関わられるようになる。
- 「番組視聴にあたって」（大澤）
- ・「失敗は成功のもと」をキーワードに、抽象的でなく、具体的に「〇〇する」というように言う。
- 番組視聴 巻の41「あいさつの技をみがけ」
- ・アカデミックスキルをCMのように入れることによって、飽きずに集中して視聴できる。
 - ・コミュニケーションスキルは専門の機関の方々に話を伺って作成する。
 - ・内容をわかりやすくするために人形を使ったりアニメを使ったりしている。

◇授業実践報告（安井）

挨拶の番組を視聴して挨拶の大切さや習慣に気づかせる。友だちとのロールプレイを通して日々の実践へつなげる。どの子にもあいさつのスキルを身につける。特にアスペルガーの児童は全体を視聴し、ロールプレイを行うことでより実践的な指導が可能。特に困難さを持っていない児童はよりよい挨拶ができ、発達障害がある児童のよい見本になる。

「ありがとうのわざをみがけ」という自主制作ビデオを学級で作成した。制作ビデオを1年生に見せて挨拶の大切さを教えるという活動を通して自分たちにもさらに定着させる。番組と同じように巻物を自分たちで作ることで児童の達成感も味わえる。

2 研究協議内容

- A：どの子にも欠けているスキルがあり、活用しやすい。
- B：養護学校高等部で「挨拶もできない」子の指導、進路指導等で必要なときに使っている。
- C：番組のレベルが上がってきている。レベルア

ップ、隙間埋めをしているので、過去の放送も視聴できるようにしてほしい（必要なスキルを必要な時に視聴させたい）。

大澤：レベルアップを図っている。来年は再放送するが、全部は網羅できない。容量の関係でサーバーに収まらない。「ゆうきくん」のコーナーは短いし、要望が多いので全回分を収めた。

安井：「ゆうきくん」を途中で止めて考えさせ、話し合いの後、続きを見せる。知っていて当然のことが意外とわかっていない。教科書に載っていないことを取り出して考えさせることができる。教師や保護者の指導の視点が指導に役立つ。Web上に「お便りコーナー」で教員や保護者の意見が出せ、それを参考に番組を改善してきている。

齋藤：軽度発達障害の番組は少ない。進路指導等スキルの習得。携帯の有料サイト等、ネットでの被害が多くなっている。余暇の過ごし方等の課題。

3 指導・講評（坂田）

- ・特別支援の教育課題は何かを踏まえて放送番組をどう活用していくか。
- ・指導の充実のためにどの番組をどのように利用していくか。4年間分をストックさせて個人的に残して使ってほしい。放送番組と番組関連のインターネット活用が大切。Webサイトでの補足（教材の活用）、情報活用能力の育成（セキュリティ）と情報教育と教育の情報化、特別支援教育のICTとデジタル放送への期待。

4 まとめ

特別支援教育の中での番組やコンテンツの利用は普通学級においても健常児、障害児の別なくコミュニケーションスキルやソーシャルスキルを育成するのに有効であり、いかに効果的に活用するかは教員の準備にかかっているとあってよい。よい番組を見つけ、授業で効果的に使う、そのためにはいつもストックを蓄積しておかなければいけない。